

ホワイエ Foyer イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 651

2026.7



1954年3月1日にビキニ環礁でアメリカが実施した水爆実験で「死の灰」を浴びた、第五福竜丸は全長約30メートル、総トン数約140トンの木造マグロ延縄漁船で、被ばくした23人の乗組員全員が放射線被害を受けた。

「被爆の記憶」「平和への願い」を未来へ伝え、戦後日本の歴史と、核兵器のない世界を願う人々の思いを象徴する。

2026年7月1日（毎月発行）定価200円 651号通巻第651号第56巻第7号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人／杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町361番地 誠志堂ビル3階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- 03 第3回「新建・みんなの知恵袋」報告 杉山 昇
 04 「第五福竜丸展示館見学」報告 笹原和樹
 05 熊本地震から10年視察報告 No.2 山下千佳
 08 「医の倫理と戦争」鑑賞&「憲法フェスティバル」 //
- 09 鋸屋根に魅せられて 吉田敬子
 10 アジアンニュース No.42 TN
 11 「建築とまちづくりセミナー-in 埼玉」案内

今月の表紙 提供：村上久美子
 5/30 第五福竜丸展示館に見学会に参加しました。船を包み込む展示館は、赤い鉄骨トラスによる大スパン構造が特徴で、柱の少ない大空間を実現しています。船体を陸上でそのまま保存するため、ドックのような展示形式が採用されており、見学者は階段や回廊から船の全体像をさまざまな高さで観察できます。

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎07/17 金 19:00 第4回「新建・みんなの知恵袋」 @新建事務所
 「低コスト工法を使った旧耐震木造住宅の耐震改修」事例 木村美千代（象地域設計）
- ◎07/24 金 18:30 第4回常任幹事会 @新建事務所
- ◎08/04 火 16:00 東京問題研究会 @新建事務所
 18:30 「スペインの歴史ある建物のコンバージョン」の報告+暑気払い
- ◎09/05 土 13:30 まちづくり市民フォーラム @板橋区立グリーンホール 2階ホール
<https://nu-ae.com/tokyo/260905forum/>

全国

- ◎07/14 火 19:00 マンションサポート研究会コアメンバー会議 @ZOOM
- ◎09/12 土-13日 全国幹事会 @12日-板橋区立グリーンホール 601 13日-板橋区立文化会館 5階
- ◎10/03 土-04日 建築とまちづくりセミナー-in 埼玉 @埼玉会館

会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆07/07 火 10:00 砂川平和ひろば検討会 視察 @砂川平和ひろば
- ◆07/23 木 春夏秋冬のある暮らし（金田）@代官山「無垢里」
- ◆08/30 日 13:30-16:20 住宅会議2026 サマーセミナー @板橋区立グリーンホール 504 会議室
 「タワマンと再開発 住まい・まちづくりを考える」
- ◆10/03 土-04日 第18回地方自治研全国研究集会 in 広島



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

東京支部会員のみなさま

2026年後期（7月～12月）会費の納入をお願いします。

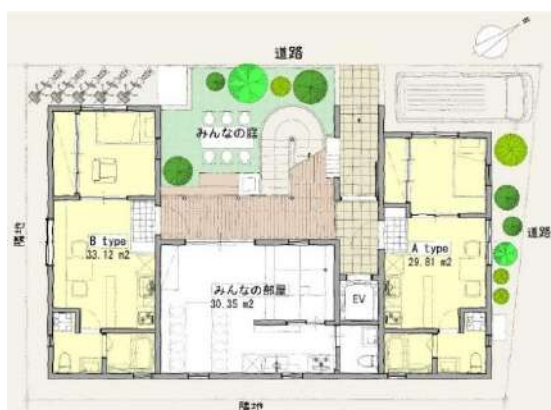
高齢単身女性が安心して暮らせる「チェリーコモン」報告

NPO都市住宅とまちづくり研究会 杉山昇

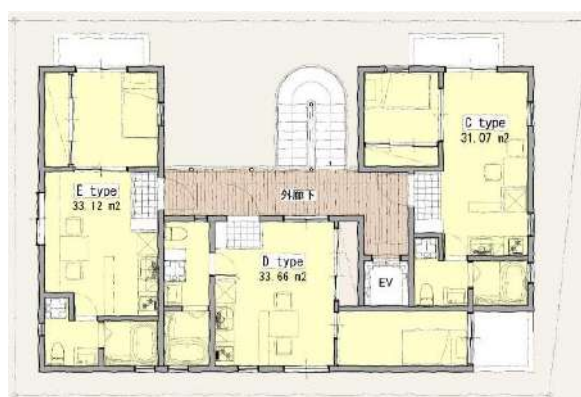
東京郊外の住宅地は、単身世帯の増加を背景に、小規模世帯が孤立して集住する地域に変貌しています。単身での暮らしや、離別死別によって単身となった女性達が、人生の高齢期を孤立せず、人とのかかわりを豊かに、最期を全うしたいと思う人は少なくありません。このような課題に対応し、単身高齢女性の老後の住まい「チェリーコモン」を練馬区桜台6丁目に計画しています。賃貸型のコーポラティブハウスで、住戸内の設備や内装は入居者のご希望を反映できます。また契約は、**終身建物賃貸借契約**ですので、途中で転居せずに住み続けられ、もし認知機能の低下が心配な場合には**任意後見契約**を結び、援助してもらうことも可能な形態です。

建物としては木造二階建てで、5戸 30～33 m²の住宅と、「みんなの部屋」（1戸の広さ相当）・「みんなの庭」の付属施設で構成されており、エレベーターも設置されています。すでに入居予定者の中にピアノの先生が1名おり、コモンで練習曲を弾いたり、コンサートを開いて子どもたちを招いたりする楽しい空間作りが期待されています。事業としては、入居予定者5名から1人あたり1000万円の無利息預かり金と、返済不要の東京都、国からの助成金と、金融機関借入金で資金調達をし、家賃収入で返済に充当することとしています。現在の進捗状況は当初4月着工予定でしたが諸事情により遅延しており、7月以降の着工を目指しています。（建築確認申請は提出済です）
ただいま60歳以上の単身女性の入居者を募集中です。

1階



2階



低コスト工法を使った旧耐震木造住宅の耐震改修事例

象地域設計 木村美千代

葛飾区では旧耐震の木造住宅が多くありますが、耐震診断を行っても、工事中の精神的負担や、工事費用の問題でなかなか耐震改修が進まない状況があります。そこで建築士事務所協会葛飾支部が行政に働きかけ、2025年4月から、東京都で初めて「低コスト工法（愛知建築地震災害軽減システム研究協議会）」が耐震改修助成の対象となりました。

7/17には、その低コスト工法を採用した耐震改修の事例と、葛飾支部で作成した断熱改修の効果がひと目で分かる「断熱改修シミュレーター」をご紹介します。

【～幸福な未来への啓示～第五福竜丸展示館見学会に参加して】

「現存する最大の木造船を見学しよう」村上久美子さん（東京支部、建交労東京都本部建築設計支部いしずえ分会）の呼びかけで、5月30日（土）都立第五福竜丸展示館の見学会が開催されました（共催：建交労東京建設・関連部会・いしずえ分会）。当日は、建交労東京都本部や新建の仲間13名が参加しました。

コールテン鋼の外壁が江東区夢の島公園の新緑に溶け込むようにたたずむ建物に、長さ33.6m、幅6m、高さ15mの1隻の木造船が、圧倒的な存在感で反核のメッセージを発しながら展示されていました。

公益財団法人第五福竜丸平和協会が定期的に発行しているニュース「福竜丸だより」（2013年NO. 375号）によると、展示館を設計した杉重彦さんは「福竜丸からは、船、海、空、時と言ったものが、また平和への願い、意志からは漠とした勢い、方向、力の様なものが浮かんだ」と当時を振り返っていますが、まさにと言った感じです。展示館の天井を見上げると建屋を支えるトラス構造の美しさを感じます。

今から72年前の1954年3月1日、太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験「ブラボー」で、世界の船1,423隻が被爆し、その中に日本から遠洋漁業でマグロ捕獲に来ていた1隻、第五福竜丸が含まれていました。広島に投下された原爆の1000倍の威力を持つ実験で、大量の放射能「死の灰」を浴びた乗組員23人は、日本に帰港するまでの長い航海の期間、放射線洗浄もできず、原爆症を発症することになります。同年9月23日に40歳の若さで亡くなった無線長の久保山愛吉さんは、日本で初めての水爆被害者として「原水爆による犠牲者は、私で最後にして欲しい」という言葉を残しています。

～はじめはカツオ漁船、晩年は水産大学の練習船として活躍～

1947年、和歌山県東牟婁郡古座町（ひがしむろぐんこぞ（現在の串本町））でカツオ漁船として建造された船は、時の経過と共に役割や名前を変え今日に至ったということを初めて知りました。カツオ漁船第七事代丸（だいななことしろまる・1947年～1953年）→マグロ漁船第五福竜丸（1953年～1956年（1954年被爆））→洗浄後、東京水産大学練習船はやぶさ丸（1956年～1967年）→1967年廃船処分・夢の島投棄（当時ゴミ埋立場）→1976年展示館建造。

漁船時代に捕れたマグロを氷で冷やしていた部屋は、東京水産大学の練習船の時代は学生室として使用されました。エンジン部分は、廃船と同時に1967年に船体から切り離されて第三千代川丸に搭載→1968年三重県熊野灘沖で座礁・沈没→1996年12月に海底から引き揚げ→2000年1月より展示館前の広場に展示されています。

これだけ大きな木造船が今日まで保存されてきたのは、平和を願い保存運動を続けて来た人々のおかげであることを改めて学びました。「3・1水爆実験は、事前にどれだけ周知されていたのか」という私たちの疑問に「当時、アメリカから日本の外務省に対し情報が入っていたものの現地に伝わることはなかった」と、学芸員の方は一つひとつ丁寧に解説して下さいました。

2階フロアに上がると船内を直接覗くこともでき、展示館の各所に設けられたVTRコーナーでは、展示館の建設当時や、船を引き揚げる様子、復元など詳細に紹介されています。船大工さんが船釘を使って2枚の板を隙間なく1枚の板に仕上げる技は改めて圧巻です。わたしたち以外にも外国の方や若い方が見学されており、この地域に展示館がある意義を感じました。

福竜丸だより（2026年5月1日NO.453号）には、今年、開館50年をむかえた節目として「第五福竜丸の航海はつづく」と題し、開館後1990年まで代表を勤めた地球化学者の三宅康雄さんの言葉が紹介されていました。「第五福竜丸は、過去の歴史というより未来の人類の命運を啓示している…人類が核兵器の存在を許し全体的な破滅の道にすすむか、核兵器と戦争を廃絶して平和と幸福な世界を築き上げるか…人々が考えることを求めるでしょう」平和を願う世界中の人々の思いを乗せて核兵器や戦争がなくなるまで航海は続くと思います。僕もこの度の見学会を通じて反核への思いがより強くなりましたし、学んだことを発信していきたいと思います。

【建交労東京都本部 書記長 笹原 和樹】



みなさんから募ったカンパを学芸員さんに贈呈



写真は、村上久美子さん（東京支部）撮影

熊本地震から10年 視察報告 No.2 (ホワイエ5月号の続き)

山下千佳 (復興支援会議事務局次長/東京支部)

熊本地震は、2016年4月14日と16日に震度7の地震が相次いで発生したことが大きな特徴で、特に2度目の本震により被害が拡大しました。地震発生から10年の節目にあたり4月13日(月)~14日(火)で現地視察に行ってきました。

14日は、熊本市内の展示を見学した後、阿蘇大橋地区の震災遺構や阿蘇神社の復旧状況を確認し、震災ミュージアムでは断層の露出など当時の被害の様子を学びました。最後に益城町の復興まちづくりセンターも訪問しました。ミュージアムや遺構がありますので、そこから学べることは多かったです。

【熊本博物館 (中央区古京町 3-2) 熊本地震 10 年展】

地震発生から10年を機に開催された企画展。地震発生直後の状況や復旧・復興の過程を、写真や映像、被災資料などを通して紹介している。地震のメカニズムや被害の概要、防災・減災への取り組みも展示され、熊本地震を後世へ伝える防災教育の場として活用されている。

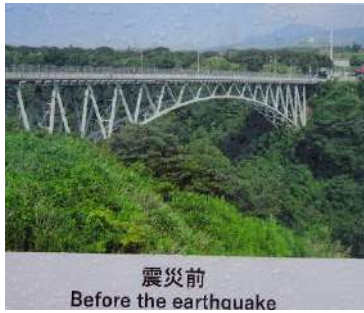


【西区 Kハイツ 3棟】



【阿蘇大橋地区震災遺構 (阿蘇郡南阿蘇村立野地区)】

大規模な斜面崩壊により、旧阿蘇大橋が崩落した地区。崩壊した斜面や旧橋周辺は震災遺構として保存され、展望所や解説施設が整備されている。新阿蘇大橋の建設と合わせて、災害の記憶と復興の歩みを伝える施設となっている。



震災前
Before the earthquake



熊本県の熊本駅から大分駅までを結ぶ。阿蘇山麓を横断する内陸ルートとして知られ、肥後（熊本）と豊後（大分）を結ぶことから名づけられた「豊肥本線」が通過



【阿蘇神社】 楼門復旧

約 2,000 年の歴史を持つ阿蘇神社は、熊本地震で国重要文化財の楼門や拝殿などが倒壊・損傷した。復旧工事では、残された部材を可能な限り再利用しながら伝統工法による修復が進められ、2023 年に楼門が復旧した。文化財の保存・継承を重視した復興事例として注目されている。



昼食「馬方そば屋」阿蘇市永草 1351-1

阿蘇市永草にある老舗のそば店。阿蘇の湧水を利用した手打ちそばや郷土料理を提供しており、地元住民や観光客に親しまれている。阿蘇地域の食文化を知ることができる店舗である。



【熊本地震震災ミュージアム KIOKU（旧東海大学阿蘇キャンパス内）】

旧東海大学阿蘇キャンパス跡地に整備された震災ミュージアム。熊本地震の発生から復旧・復興までを、映像や証言、展示資料によって紹介している。「記憶を未来へつなぐ」ことを目的とし、防災教育や震災の継承拠点として活用されている。



活断層が校舎を横断し、建物が大きく損壊した状態を保存している震災遺構。地表には断層によるずれがそのまま残され、建物内部にも断層が通過した痕跡を見ることができる。地震による断層活動を実物で学ぶことができる国内でも貴重な震災遺構となっている。



【益城町 復興まちづくりセンターにじいろ】

益城町の復興まちづくりの拠点施設。住民交流や地域活動、防災学習の場として整備され、町の復興計画や復興事業、地域コミュニティの再生に関する情報を発信している。行政と住民が協働して進める復興まちづくりの拠点施設として運営されている。



TV 報道に出演される防災システム研究所の山村武彦さんにお会いして、お話をしました。

山本草介監督のドキュメンタリー映画「医の倫理と戦争」

5/23 山本草介監督のドキュメンタリー映画「医の倫理と戦争」を平和と労働センター2階ホールで観てきました。山本草介監督は、新建築家技術者集団で以前、全国事務局員として勤務していた山本喜代子さんの次男です。会場には東京支部の会員の方が多数、来られていました。

映画は731部隊の問題を軸に「医療」と「戦争」が決して無関係ではないこと、そして“命を守るはずの医療”が国家や時代の空気の中でどう変質していくのかを鋭く問いかける作品でした。

多くの方のインタビューと取材で、知らなければならない多くの真実が記録されていました。今年、100歳になられるという「かにた婦人の村」名誉村長の天羽道子さんの穏やかでいて、芯の強い生き方と語らひは、心に染みしました。

上映後には、監督と企画者の伊藤真美さんとの対談がありました。伊藤さんの「医療者は戦争に備えるのではなく、戦争を起こさせないために力を尽くすべき」とも印象に残っています。過去の歴史を知ることは、単なる“振り返り”ではなく、いまの社会や自分たちの立ち位置を考えることでもあるのだと感じました。多くの方に観てもらいたいので、上映会を企画できたらと思いました。



「第38回憲法フェスティバル」

6/20 「第38回憲法フェスティバル」が大手町の日経ホームで開催され、参加しました。

テーマは「わたしの・あなたの・だれかの人権～基本的人権を考える～」で1部は東京大学大学院総合文化研究科の准教授を務める日本の経済思想家・マルクス経済学者の齋藤幸平氏の講演『持続可能な共生社会とコモンの思想』でした。休憩と質疑を挟んで2部はスタンダップコメディ 松元ヒロ氏 会場には550人が集まり満席、オンライン配信での視聴は130人と発表されました。

齋藤さんの講演はタイトルとは少し違い、4月に発売された書籍「人新生の『黙示録』」に沿った内容でした。松元ヒロさんによる更科功さんの著書「絶滅の人類史」を紹介しながらのコメディ、そして「憲法くん」大いに笑いあり、そして笑えない現実をリアルに演じられていました。

齋藤さんにサインをもらった時に、昨年12月に神宮外苑の裁判報告でお会いしたことを話し、新建のことを覚えていて下さって、嬉しかったです。(By.山下)



鋸屋根に魅せられて

愛知県一宮市 ② 写真家 吉田敬子

写真展は通常、一か所の会場で開催します。今回紹介する写真展は初企画展です。場所は愛知県一宮市です。現在も 2,000 棟以上のノコギリ屋根が現存し、棟数では日本一の町です。昭和（戦後）の高度経済成長期は「ガチャ万景気」に沸き織物産業で栄えました。一宮市の町並みで見られるノコギリ屋根の工場群は、この時代の隆盛を伝える貴重な産業遺産です。しかし現状は、繊維不況や後継者不足などで廃業が相次ぎ、工場は次々に取り壊されています。写真展を企画した平松毛織株式会社の平松さんも同様でした。祖父の代で織物業は辞め工場の取り壊しは目前でした。解体することは祖父が築いてきた歴史をも消してしまうことになる。解体せずに残す決断でした。この地域を支えてきた工場を町の記憶として残すため、活用していく時期と決断しました。10 年後、築き上げた「のこ二」がメイン会場です。繊維をつくり続ける工場、あり方を変えながら受け継がれる工場、これから再生へと歩み出す工場、そして消えゆく工場たち。のこぎり屋根の写真と共に地域を巡り、それぞれが持つ固有の時間と記憶を体感する。私の写真が、あたかも自社工場の如く、受付ロビーや工場内部に展示され、見事な演出でした。写真を見るために、町を歩き工場を探す。懐かしい風景や場所そして、のこぎり屋根。工場を訪ねて歴史を体感する。空き工場の新しい活用法に触れ、のこぎり屋根工場で頑張る職人さん達に、エールを送った写真展になりました。

家具工房 Trunk（オリジナルオーダー家具製造販売 2004 年オープン）





のこぎり屋根
- 魂の記録 -
会場マップ

繊維をつくり続ける工場、あり方を変えながら受け継がれる工場、これから再生へと歩み出す工場、そして消えゆく工場

一宮の地域特性を背景に、のこぎり屋根の写真と共に地域を巡り、それぞれの場所が持つ固有の時間と記憶を体感する

Google Map QR-code



展示期間 2026.
4.25 ~ 5.17
開館日・時間は会場ごと
に異なる (要事前確認)

ノコシンポジウム
2026.4.26(日)
14:00~16:00
会場:のこぎり二
どなたでも参加できます

つくる。 A
のこぎり B
葛利毛織工業 C
スパーブ D
対話と五感と庭 E
家具工房トランク F
木玉毛織(新見本工場) G
オトギノカミマチ H
CASA I
のこ屋根ベース J
メイン会場:のこぎり二 K
国島 L
書庫とOO(Re-TAIL) M
com-cafe 三八 N

上記写真の場所上左より右へ
A つくる内部 C 葛利毛織工業
D スパーブ E 対話と五感と庭
F トランク H オトギノカミマチ
J のこ屋根ベース i K のこ二
L 国島外観内部 M 書庫と〇〇
写真展を見るには町を歩き
工場を探す。訪ねて内部を見
せて頂き、繊維産業の歴史を
肌で感じ、写真を見る。皆さん
驚きと感動でした。工場の方
々の笑顔も忘れられません。

5月10日から17日まで、一週間の予定で、3年ぶりにベトナムのハノイを訪れました。今回は、特段の用事もないので、骨休めというか休養の時間を楽しみました。お寺巡りをした時の写真などをご紹介します。

ハノイには、ぜひ一度皆さんも訪れてみてください。

入国 2026/05/10(日)

成田空港を朝の9時30分に発って、ハノイ現地のノイバイ空港に、午後1時10分に着きました。イミグレーションで、1時間ほど並んで審査を受けました。いつもはすぐ終わるのですが、今回は時間がかかりました。ホテルに頼んでいた迎いのタクシーの運転ちゃんが、私をすぐ見つけてくれて、ホテルまではスムーズでした。ただ、空はどんよりとしており、埃っぽく、まずい時期に来てしまったかと一瞬戸惑いました。3年前にも泊まったホテルでしたが、一人使用なので割高になっています。夕方、今回のほ

ぼ全工程に付き添っていただける女史が来てくれ、コーヒー屋さん立ち寄った後、シーフードレストランに夕食を食べに行きました。彼女の手作りの工程表を確認しながら、貝類、エビ、魚などをいただきました。

ホアンキエム湖前にあったビルが壊され、広場になっていました。この周辺は、土曜日と日曜日は、歩行者天国となっており、朝は、散歩する人、日中はいろいろな人、夜も家族連れなどでにぎわっていました。

2日目 2026/05/11(月)

旧市街の北にホータイ(西湖)があり、この湖の周囲にあるお寺巡りをしました。鎮国寺に行ったら、外国人を含めて観光客が多かったです。金蓮寺(キムリエン)と万年寺は、ほとんど観光客はいませんでした。夏時期なので、徒歩ではなくタクシー利用でしたが、タクシーを携帯で呼んで、その時に決済も終わって



いるようで、かなり進んでいる様子です。ランチは、ブンチャーでした。午後は、メトロに乗りました。始点から終点まで行って帰ってただけでしたが、乗った気分になりました。

3～4日目 2026/05/12～13(火・水)

今回の休養の目玉で、マイチャウというところに行きました。てっきりバス旅と考えていたところタクシーで乗り付けました。ハノイ市の西北方向で、ほとんど観光客も訪れないところでした。ホテル名称は、それでもリゾートという名前が付けられていました。夕方になったら、ドイツ人の3組が泊まりに来ました。日本では田植えを行ったばかりの季節ですが、ここでは、もう稲穂が出ていました。2期作なのですね。



5日目 2026/05/14(木)

また、ハノイに戻って、日本語の通訳の方と会食で、久しぶりの日本語会話になりました。

6日目 2026/05/15(金)

もう一人のハノイの友人が別宅を持っているので、今日はそちらへとまれというので、その旦那さんの案内で、エコパークという別宅に行きました。その同じ棟に温泉施設があるというので、訪問。水着を着て混浴で入るのはアジア系かな。温泉とは名ばかりの、薬湯を入れている感じでした。普通のサウナのほかに、雪が降るサウナがあったのにはびっくりでした。韓国系かな。そのほかに、やはりお寺も案内してもらいました。翌日は一人で泊まるということで、カードキーの操作を教えてくださいました。



泊まったお宅の前には、振興開発地ということもあって、大きな池を伴った公園がしつらえてありました。

7日目 2026/05/16(土)

焼き物の町のバッチャンに博物館ができていますので、見学に行きました。焼き物の展示物のほかに、土曜日ということもあって、ワークショップを行っており、多くの方が参加しており、手び練りを楽しんでいました。そのあとは、友人家族と中華ランチ。そのあとで、知人が近くにいるというので、そのお宅にも伺いました。

出国 2026/05/17(日)

別宅の棟の下にタクシーが来て、空港まで、深夜出国。



2026 建築とまちづくりセミナー in 埼玉

埼玉から愛を込めて「建築とまち」の歴史と未来を考える

埼玉は多彩です。街道筋や川筋から埼玉を見ると、広い平野の台地等を河川が刻む独特の地形に多様な建築文化やまちづくりが行われています。街道筋で取り組まれる旧市街地の文化を活かしたまちづくりや、都市化が進む浦和駅周辺のまちづくりなどについて、市民主体で取り組んでいる「埼玉愛」溢れるキーパーソンの方々を講師陣として七つの講座と四つのコースのエクスカージョンを企画しました。全国の縮図、埼玉で「建築とまち」の歴史と未来を考え、体感してみましょう。

10月3日(土)～4日(日) 埼玉会館(前川國男設計) 2階ラウンジ (定員 90名)

さいたま市浦和区高砂 3-1-4 JR「浦和駅」西口から徒歩 6分

10月3日(土)

<プレ企画>①10:00～11:20 浦和駅周辺まち歩きコース 案内人:古里実ほか (定員 15名申込順)

【集合】浦和駅改札正面

②11:30～12:00 埼玉会館見学コース 案内人:同上 (定員 20名申込順)

【集合】埼玉会館 1階玄関前



<講座> 12:30 開場・受付 13:00 開校式

13:20 第一講座「参加型で進めた『さいたま百景』の選定と書籍づくり」

三浦匡史(さいたま百景選定市民委員会編集委員)

14:15 第二講座「埼玉の『絹の道』をめぐる」 藤井美登利(NPO川越きもの散歩代表)

15:15 第三講座「ぎょうだ足袋蔵ネットワークの取り組み」 朽木 宏(クチキ建築設計事務所)

16:10 第四講座「21世紀映画のまち=深谷シネマ『市民活劇』の四半世紀」

小林 真(NPO市民シアター・エフ理事長)

17:10 第五講座「『ほしい暮らしは私たちでつくる』～脱再開発の公民連携まちづくりの現場から」

高橋浩志郎(草加市職員)

<懇親会> 18:30～20:30 懇親会(埼玉会館内 ビストロやま)



10月4日(日) 9:00 開場、ガイダンス

<講座>

- 9:05 第六講座 浦和の「建築とまち」の魅力と課題 古里 実 (都市づくり NPO さいたま理事)
10:00 第七講座「再開発の仕組みと課題」 岩見良太郎 (埼玉大学名誉教授)
11:00 トークセッション「再開発の課題」 岩見良太郎 / 古里 実
11:30~11:45 閉校式



<4日 エクスカーション(まち歩き)> 13:00~16:00 各コース定員15名(申込順)

コースA: 中浦和ヒアシンズハウス、武蔵浦和駅周辺タワマン群コース 案内人: 古里実

【集合】13時00分埼玉会館1階玄関前

コースB: 大宮駅東口、氷川神社参道、大宮公園、盆栽村コース 案内人: さいたま百景選定市民委員

【集合】13時20分JR大宮駅中央コンコースまめの木前集合

コースC: 旧日光街道草加宿リノベーションまちづくりコース 案内人: 高橋浩志郎、松本猛

【集合】13時50分東武スカイツリーライン草加駅改札前集合

コースD: 川越旧織物市場、りそなコエドテラス、蔵造のまちめぐりコース 案内人: 藤井美登利、鎌原史英

【集合】14時00分東武東上線川越市駅改札前集合

*各集合場所までは各自公共交通機関を使用ください



<参加費> プレ企画: 無料、講座1-5: 7,000円、講座6-7: 2,000円 (各講座: 1,500円)、

エクスカーション: 1,000円、懇親会: 7,000円 (学生3,500円)、学生は講座、エクスカーションが無料

<申込方法> 下記新建ホームページまたはQRコードから申し込んでください。また、指定の口座へ参加費を事前に振り込んでください。現地現金払いは受付しません。 <https://nu-ae.com/261003-saitama/>

<申込締切> 9月15日(火)

<参加にあたってのお願い> 本企画ではレクリエーション保険等には加入しておりません。安全には十分配慮して実施しますが、参加中の事故やけが、病気等については主催者では責任を負いかねます。交通ルールを守り、安全にご参加ください。必要に応じて各自で保険への加入をご検討ください。

<主催・問い合わせ先> 新建築家技術者集団

TEL: 03-3260-9810 FAX: 03-3260-9811

専用メール madoguchi@nu-ae.com



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え？

広告主募集中です!

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728